ネパール

ネパールはヒマラヤ山脈の麓に位置し、
約 3,100 万人の人口を擁する
東西に細長いかたちをした内陸国です。

ネパールでは、安全な飲み水を利用できる人が全人口の 89% に達していますが、適切な衛生設備（トイレなど）を利用できているのは、人口の 31% にとどまります。特に都市部では、増え続けるゴミ・下水に対して、処理が追いついていない状態です。

トイレの後にトイレットペーパーではなく手を使って清潔にする習慣や、食事を手で食べる習慣があり、子どものころから、安全な衛生設備を使える環境で手洗いなどの衛生習慣を身につけることがとても大切です。

教育面においても、小学校に通えていない子どもは男子で 22%、女子で 36%いるとされ、より多くの子どもたちが学校に通えるような支援が必要です。

トイレ

街のゴミ

グラウンドでテストを受ける

PROJECT

ネパール赤十字社では政府やユニセフなどと協力して、学校内から地域にまで、メンバーを通じて保健衛生知識を普及していく活動に長年取り組んでいます。

衛生・教育環境の改善

学校の中の水道・トイレ・ゴミ箱などの衛生設備を修理したり、新しく造ったりするとともに、子どもたちが先生や地域の人たちと一緒に衛生知識を学びます。

新しく造られた水道では、多くの人が同時に手を洗うことができます

青少年赤十字活動の支援

生徒の活動をサポートできるよう、先生向けの研修会を開いたり、教材を配付したりしています。各校では、生徒が救急法や衛生について学び、他の生徒や地域の人たちに伝えています。

先輩から後輩へ、
手洗いの仕方を教えます

生徒が調べて作った、
地域の衛生設備のマップ

国際理解・親善

日本とネパールの子どもたちが互いを知り、より身近に感じることができるよう、トピックアルバムを交換したり、訪問して交流を深めたりする活動があります。また、ネパールの子どもたちが必要とする文具を贈っています。

お揃いのバッグで下校

贈られた文具とバッグのおかげで、みんなと一緒に中学校に通って、しっかり勉強できるようになりました。

参考資料：UNFPA 2012 "State of World Population 2012"、World Bank 2012 "World Development Indicators 2012"

考えよう、わたしたちにできること

わたしたちの普段の生活とくらべて、何が違うでしょうか？

わたしたちにできることは何でしょうか？

●3カ国のこと、各国の青少年赤十字メンバーやボランティアのことを調べよう

図書館やインターネットで 3 カ国のことを調べてみましょう。日本赤十字社の資料も活用できます。

●現地の子どもたちと交流しよう

トピックアルバム（写真を貼ったり、絵やメッセージを書いたカード）を交換したり、直接交流できる国際交流プログラムに参加する方法などがあります。

●青少年赤十字活動資金に協力しよう

教育等支援事業のために使われる“青少年赤十字活動資金（1 円玉募金）”は、日本赤十字社各都道府県支部で受け付けています。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

最寄りの日本赤十字社都道府県支部へのお問い合わせは
ナビダイヤル 0570-009595（ナビダイヤル）

日本赤十字社 総務局 組織推進部 青少年・ボランティア課　〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL：03-3437-7082　FAX：03-3432-5507　ホームページ：http://www.jrc.or.jp

平成26年2月28日発行

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

青少年赤十字活動資金による教育等支援事業
International Friendship Project

アジアの子どもたちとともに

世界では…

6,074万人	6,074 万人の子どもたちが何らかの事情で小学校に通っておらず、そのうちの 47%は、小学校に入学することすらできないといわれる。
10億3,090万人	トイレを利用できず、衛生習慣として最も危険な形態（屋外での排泄）をとる人々の数は、10 億 3,090 万人にものぼる。
120万人	下痢が原因で、1 年間に推定 120 万人の 5 歳未満の子どもたちが死亡している。

わたしたちにとって“あたりまえのこと”が難しい状況の中で生活をしている、世界の仲間がいます。
一方、わたしたちの毎日の生活は世界のさまざまな人々とのかかわりの上に成り立っています。
ともに助け合い、平和で、幸せな社会を築いていくために取り組むことが必要ではないでしょうか？

できることから始めよう

世界の仲間が直面しているさまざまな問題を知ること、少しでもその状況を改善するためにできることから一緒に取り組むこと。
日本赤十字社では、青少年赤十字メンバーや指導者の先生と相談し、メンバーがこのような思いからボランタリーに集めている“青少年赤十字活動資金”を活用して、アジアの 3 カ国で青少年に対する支援を行っています。

バングラデシュ

バングラデシュはガンジス川河口に位置し、約 1 億 5,240 万人の人口を擁する人口密度の高い国です。

バングラデシュでは、少しずつ経済や保健、教育などの状況が改善されてきているものの、いまだに人口の 77%は 1 日 2 ドル以下の生活にあり、貧困が大きな課題となっています。また洪水・サイクロンなどの自然災害が頻繁に発生する地域でもあります。
新生児・妊産婦死亡率も高く、5 歳未満の子どものうち男子の 40%、女子の 42% が栄養不足のため低体重であり、また適切な衛生設備（トイレなど）を利用できているのは人口の 56%と、依然として貧困と関連した保健衛生の問題が存在します。

PROJECT

バングラデシュ赤新月社では、青少年に対して保健衛生や赤十字・赤新月についての知識を伝え、その青少年自身が学んだ知識を広めていくピア・エデュケーション活動を実施したり、災害時に救護活動に参加したりできるようサポートしています。

衛生・教育環境の改善

学校内の衛生設備の改善や保健室の設置、メンバーに対する救急法講習や清掃活動のサポートを行います。また、特に貧しく困難な環境におかれた子どもたちが必要としている文具を贈っています。

手洗い場の設置によって、衛生環境が変わった

文具セットを受け取る生徒たち

青少年赤十字活動の支援

メンバーの活動をサポートできるよう、指導者やサポート役の“コア・ボランティア”に対する研修会を開いています。各校では、メンバーが学んだ救急法や衛生、赤十字・赤新月についての知識を、他の生徒に伝えています。

救急法を学んだメンバー

国際理解・親善

日本とバングラデシュの間でトピックアルバム（絵やメッセージを書いたアルバム）を交換したり、訪問したりして交流を深めています。また、バングラデシュ国内でメンバーが相互訪問を行い、互いに学ぶ機会を作っています。

自分で描いた絵を贈るメンバーたち

モンゴル

モンゴルは中国の北に位置し、約 300 万人の人口を擁する内陸国です。

モンゴルでは高い貧困レベルとともに、都市への人口集中が問題となっています。原因として、まず地方では雇用や収入を得る機会が限られていること、インフラの未整備や不十分な教育・健康サービス、市場・情報へのアクセスの困難さがあげられます。さらには遊牧で生計を立てることができなくなった遊牧民が地方から移住し、「ゲル」（移動式住居）を都市郊外に建てて集落を形成することなどがあります。
安全な飲み水を利用できる人は全人口の 82%、適切な衛生設備（トイレなど）を利用できているのは人口の 51% にとどまります。

PROJECT

モンゴル赤十字社では、同年代に知識を伝えるピア・エデュケーターの育成や指導者の研修を行い、青少年赤十字の組織を強化して、学校における衛生・教育環境の整備とあわせた保健衛生の知識や衛生習慣の普及を行っています。

衛生・教育環境の改善

文具 6,000 セット（1 年あたり）を必要とする子どもに配付するほか、学校に対してスポーツ用品を配付しています。また、学校のトイレを修理したり新しく作ったり、“赤十字活動ルーム”を学校に設置する活動を行っています。

文具セットを受け取った生徒たち

青少年赤十字活動の支援

メンバーに対する研修会を開き、救急法や保健衛生の知識を伝えるピア・エデュケーターを育成しています。また、コンテストや会議を開いたり、普及のための教材を作成したりして、子どもたちによるピア・エデュケーション活動をサポートしています。

救急法の研修を受けてピア・エデュケーターになるメンバー

全国ユースキャンプ（毎年夏に開催されるキャンプ）

国際理解・親善

日本とモンゴルの間でトピックアルバムを交換したり、互いを訪問したりして交流を深めています。また、日本やモンゴル、他の国のメンバーが交流に使う国際キャンプの建設もサポートしています。

参考資料：UNICEF 2012『世界子供白書 2012』、UNICEF・WHO 2012 "Progress on Drinking Water and Sanitation 2012 UPDATE"、UNESCO Institute for Statistics 2012 "GLOBAL EDUCATION DIGEST 2012"、UNFPA 2012 "State of World Population 2012"、World Bank 2012 "World Development Indicators 2012"

参考資料：World Bank 2012 "World Development Indicators 2012"